

経営比較分析表（平成28年度決算）

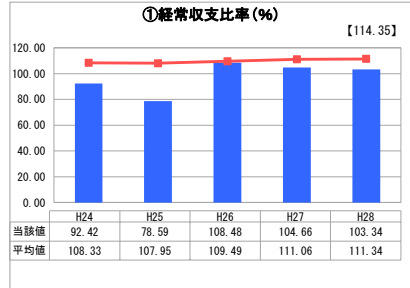
岐阜県 川辺町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	86.19	97.25	3,947	

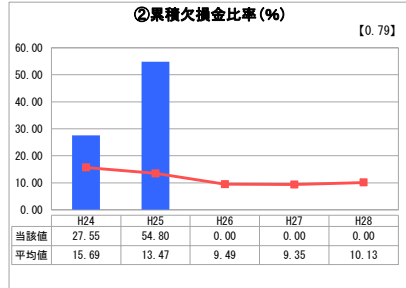
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,444	41.16	253.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,097	8.19	1,232.84

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

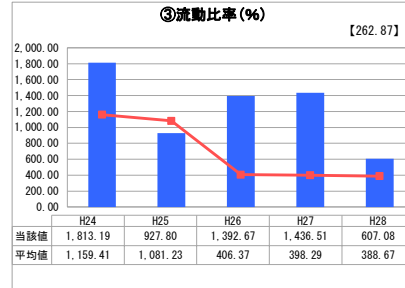
1. 経営の健全性・効率性



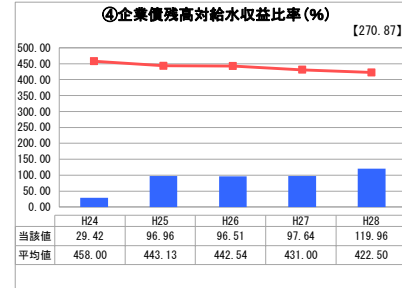
「経常損益」



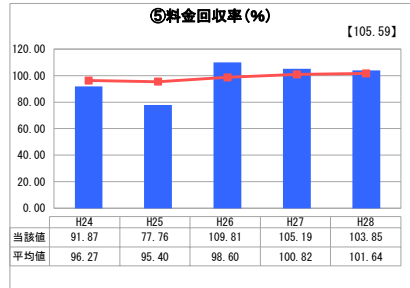
「累積欠損」



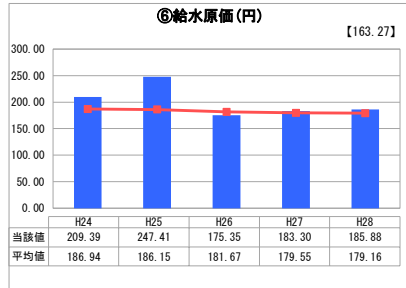
「支払能力」



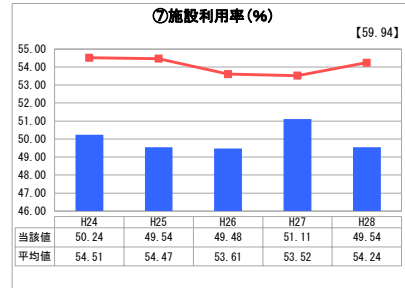
「債務残高」



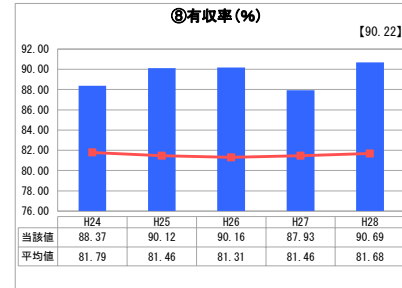
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

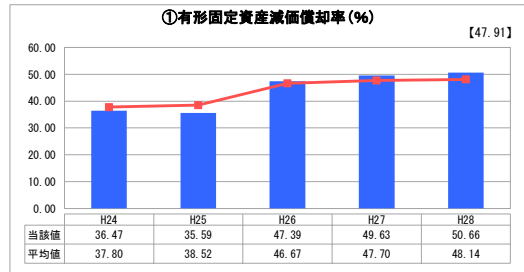


「施設の効率性」

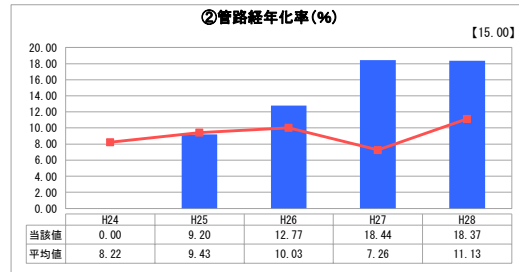


「供給した配水量の効率性」

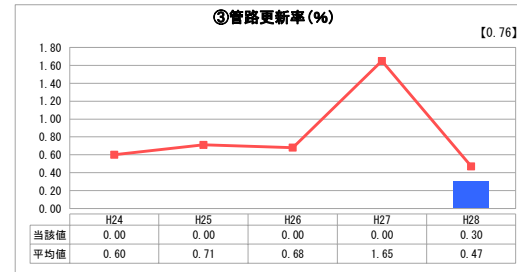
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 平成25年度までは赤字が続いていたが平成26年度からは黒字となり、健全な状況である。今後もさらなる経費削減に取り組む必要がある。
- 平成26年度の新会計基準によるみなし償却制度廃止により、固定資産を見直したところ、累積欠損金が解消されたが、経年により維持管理費が増加傾向にある。
- 流動比率は減少傾向にあるため今後の動向に注意が必要である。
- 現状は類似団体より低い数値であるが、今後の管路更新事業により企業債の借入が増加し比率も増加する見込みである。
- 料金回収率は100%を超えている。
- 平成27年度より類似団体と比較し高い数値となっているため、さらなる経費削減策が必要である。
- 類似団体より低い数値であるが、水道事業認可時における排水能力と比較しているため、当時の計画より減少しているが致し方ない。
- 平成27年度は漏水が発生し数値が低下したものの、平成28年度は例年通りの数値に回復した。

以上のことから、概ね健全な経営状態といえる。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率、管路経年率とともに、今後も増加する見込みであるため、老朽管の更新事業に取り組む必要がある。
- H28年度から重要給水施設への耐震化工事を実施しており管路更新率が増加している。今後も継続的に更新する予定であるが、耐用年数を経過する管路が多く、更新事業が追いついていない。

今後も計画的な管路、ポンプ施設の更新が必要である。

全体総括

平成28年度より長期間に渡る重要給水施設への耐震管布設替え事業に着手した。管路の未耐震化率が高く必要な事業であるが、新規債の借入により今後償還費が増加していく見込みである。維持管理に係る費用の増加も見込まれ厳しい財政状況が続くが、有収率の向上や経費削減などの取組を続ける。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。